

平成27年度スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

受託者名	高知県	実施校名	南国市立十市小学校
学校のホームページアドレス	http://www.kochinet.ed.jp/tochi-e/		

1 取組テーマ（中心となるテーマ：食と学力）

食育の実践から「ことばの力」を高める

～主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブラーニング）を通して～

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置人数	2人
配置されていない場合の対応状況	

3 推進委員会の構成

<高知県スーパー食育推進委員会…9名>

委員長	西森 善郎	公益財団法人高知県学校給食会 理事長
副委員長	三谷 英子	RKC調理師学校 校長
委員	笠原 賀子	山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学 教授
委員	原田 哲夫	国立大学法人高知大学 教授
委員	岡西 博文	香南市立赤岡小学校 校長
委員	内海まゆみ	室戸市立佐喜浜小学校 栄養教諭
委員	森崎みのり	中部教育事務所 教育支援第二担当チーフ
委員	大野 吉彦	南国市教育長
委員	黒瀬 渡	南国市立十市小学校 校長

事務局 6名

<十市小学校スーパー食育スクール実行委員会…20名>

高知県教育委員会事務局課長1名、南国市教育委員会指導主事1名、元小学校長2名、十市小学校PTA代表2名、地域生産者代表2名、食生活改善推進員1名、大学教授1名、学校評議委員会代表1名、民生児童委員会代表1名、JA十市1名、十市小学校教職員7名

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
高知大学教育学部	生活習慣アンケートと学力調査について分析、助言
公益財団法人高知県学校給食会	事業への指導、助言
十市農業協同組合（JA十市）	事業への協力、指導、助言
十市地区食生活改善推進員	地元食材を活かした調理指導
南国市十市漁業協同組合	事業への指導、助言
ごとおち市（JA十市直販所）	地元食材を使った弁当の開発及び販売

5 実践内容

事業目標

- 朝食を含む基本的な生活習慣の改善により、学習意欲の向上を図る。
- 生活科・総合的な学習の時間を中心として、主体的・協働的に学ぶ食に関する指導の授業実践により、生活習慣の改善と「ことばの力」の向上を目指す。

※本校では「ことばの力」を『伝え合う力（表現力）』と位置付け、言語活動の充実を図り、主体的で双方向型・協働型授業を推進することで『伝え合う力』が向上し、思考力・判断力・表現力が育成されると考える。

評価指標

- ① 高知大教育学部 原田哲夫教授・本校生活改善チーム部会中心に取り組む朝食を中心とした生活習慣の改善
 - ・早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣の改善
(早寝…現在 52%⇒60% 早起き…現在 93%⇒100% 朝食欠食…現在 2.3%⇒0%)
 - ・栄養バランスのとれた朝食摂取率が現在 55%から 65%へ 10 ポイント増
 - ・学習意欲の高まりが事前調査より 5 ポイント増
- ② 各学年担当教員が連携し食を中心とした生活科・総合的な学習の時間における「十市式食育カリキュラム」の開発
 - ・栄養教諭の提案により学級担任中心に取り組む給食指導における学校給食の残食率を現在 8.7%から 5%以下に減
- ③ 本校授業改善チーム部会の提案により各学級担任・関係教諭が取り組む生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導の充実と「ことばの力」の向上
 - ・学力調査の活用力（特に表現力）について事前調査より 3 ポイント増
- ④ 学校が家庭や地域と双方向となる効果的な情報発信の実施
 - ・学校評議委員の評価の上昇

評価方法

○事前調査と事後調査の比較・検討・分析による評価

- ① アンケート
 - ・朝食摂取率と内容 ・学習意欲、学習状況
- ② 学校給食残食調査
- ③ 学力調査
 - ・標準学力調査、高知県学力定着状況調査
- ④ 学校評議委員評価
- ⑤ その他の外部評価
 - ・開かれた学校推進委員会 ・学校保健委員会

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

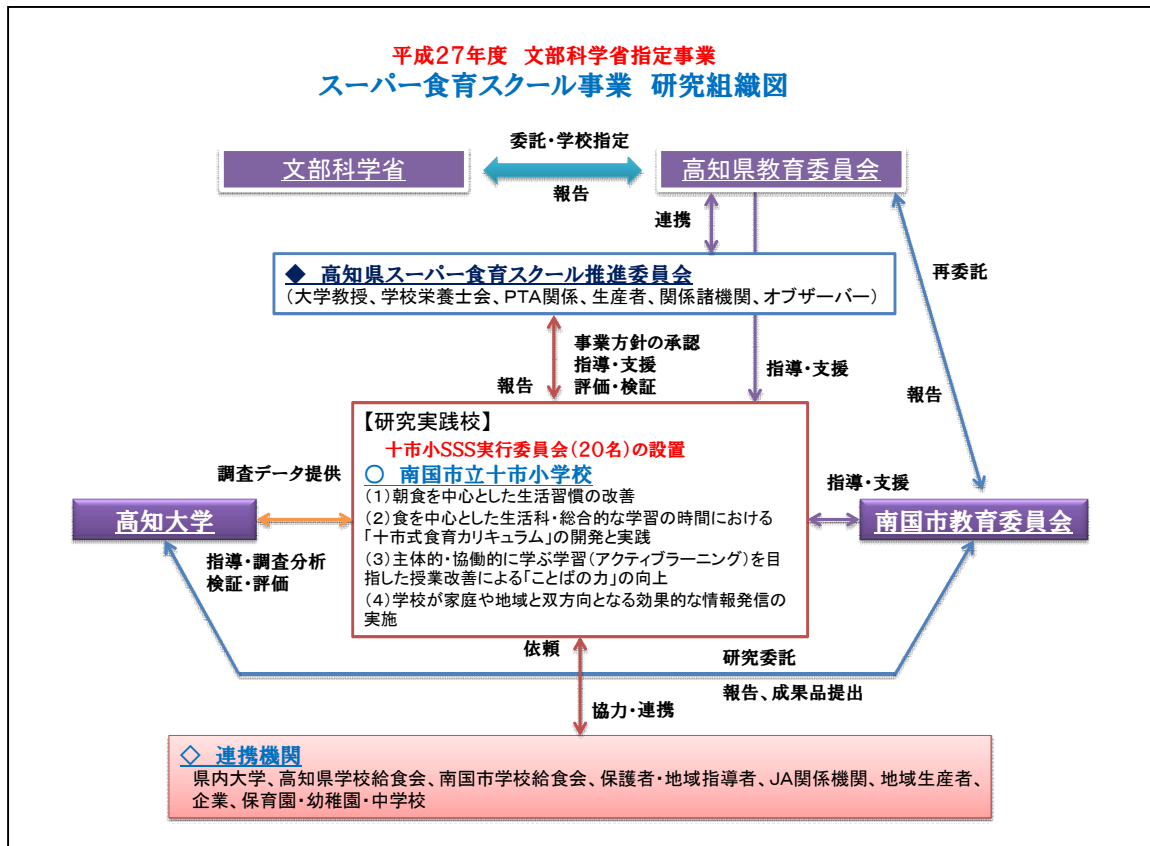
児童の朝食を中心とした生活習慣の改善を図り、学習意欲の向上を目指すとともに、生活科・総合的な学習の時間を中心とした食に関する指導を充実させ、他教科等との関連を図りながら、主体的・協働的に学ぶ学習を通して、「ことばの力」を高め、学力調査における活用力の値の好転を目指す。

そのため、アンケート調査と学力調査によって、本校児童の朝食摂取状況と学習意欲との相関を調査する方法を調べるとともに、食育の体験で培った知識・技能を言語活動につなげるための授業の効果的な在り方について検証する。

実践内容

○具体的な取組

① 研究組織図



② 会合関係

・スーパー食育スクール実行委員会	3回	実施
・高知県スーパー食育スクール事業推進委員会	3回	実施
・学校保健委員会	2回	実施
・開かれた学校づくり推進委員会	3回	実施

③ 朝食を含む基本的な生活習慣改善のための取組

・生活習慣アンケート(十市小学校様式)	2回	実施
・生活習慣アンケート(原田教授様式)の実施	2回	実施
・生活リズムチェックカード	3回	実施
・食育講演会(教職員、保護者、地域の方を対象)	3回	実施
・給食試食会(保護者、地域の方を対象)	1回	実施
・児童に向けての校長講話	10回	実施
・講演会「食と学力」(教職員対象)	1回	実施
・給食委員会、保健委員会による集会発表	7回	実施
・参観週間での生活リズムに関する授業	11月各学年1回	実施
・食育パンフレットの作成と配布		
・スーパー食育スクール啓発用の横断幕の設置		
・食育リーフレットの作成と配布		
・食育クリアファイルの作成と配布		



④ 食に関するカリキュラムの開発と実践

- ・食を柱とした生活単元学習 1時間 実施
- ・給食の献立を考える授業 1時間 実施
- ・ことばの力を高める授業 2時間 実施
- ・旬の野菜を考える授業 1時間 実施
- ・望ましい食習慣の授業 1時間 実施
- ・アクティブラーニングに関する講演会 2時間 実施
- ・学力調査に基づく表現力の育成のための研修会 3回 実施
- ・先進校、先進地域への視察

(11月25日 北海道東神楽町立東神楽小学校スーパー食育スクール研究発表会)

(11月28日 神奈川県横浜市立岸谷小学校第1回公開授業研究会)

(12月2日 新潟県村上市立村上小学校スーパー食育スクール研究発表会)

⑤ 学校給食及び食に関する体験活動の重視

- ・給食時間の5分間指導 20回 実施
- ・給食もりもり大作戦(残食率を減らす活動) 6月、12月 2回 実施
- ・夏野菜の栽培活動
- ・米作り(稲刈り)
- ・地域の農家を訪問しての学習(やまもも、ししとう)
- ・収穫野菜を使っての調理体験(夏野菜ピザ、サラダ、ピクルス、ししとうのベーコン巻)
- ・給食委員会による給食時間の放送(毎日)
- ・夏休みの食に関する自由研究(簡単にできる朝食献立レシピ)
- ・食育カルタの製作と配布
- ・十市小版食育検定の実施
- ・食に関する体験活動啓発用パネルの作製
- ・食に関する社会見学 10月～11月 各学年で実施



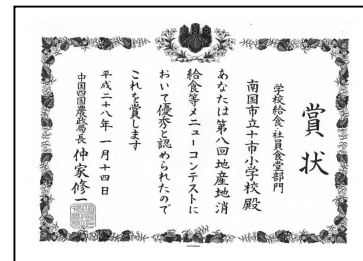
① スーパー食育スクール研究発表会の開催

■平成28年2月9日(火) 11:45～16:50

- ・給食時間における食の指導公開
- ・児童が開発したご当地弁当の販売(とおち汁付き)
- ・公開授業(生活単元学習、特別活動、生活科、総合的な学習の時間、国語科)
- ・表彰式(第8回地産地消等メニューコンテスト中国四国農政局長賞受賞)
- ・全体会(研究概要の説明、全体指導)



《全体会の様子》



《中国四国農政局長賞》

6 成果

○児童の生活習慣改善

- ①早寝（学年で決められた時間に就寝できている）・・・52.0%（H27.2月）⇒65.9%（H27.11月）
- ②早起き（7時までに起きている）・・・・・・・・・・93.0%（H27.2月）⇒96.1%（H27.11月）
- ③朝食の欠食（朝食を食べない日がある）・・・・・・・・2.3%（H27.2月）⇒1.0%（H27.11月）
- ④栄養バランスのとれた朝食摂取・・・・・・・・・・55.0%（H27.2月）⇒64.9%（H27.11月）

○高知大学教育学部原田哲夫教授に生活習慣アンケートと標準学力調査との関連についての分析結果報告をいただいた。成果の一部として、以下の内容が挙げられた。

- ・睡眠時間が十分な児童は国語の成績が良い傾向が見られた。特に平日床にいる時間が9時間20分を境に顕著にその傾向が見られた。
- ・毎日決まった時刻に朝食を摂っている児童は、国語の基礎問題で90点以上獲得した割合が他よりも高く、不規則な児童ほど70点未満の割合が高い。
- ・主食、主菜、副菜の揃った朝食を摂る頻度の高い児童は、国語の言語技能で90点以上獲得した割合が他よりも高い。

○学校給食の残食率の減少・・・・・・・・8.7%（H26.1月までの平均）⇒4.8%（H27.12月）

○「ことばの力」の高まり

学力調査等の数値的な大きな伸びはなかったものの、標準学力調査の総評では、『国語を見ると、全国を下回り、課題があるといえそうです。ただ、活用は良好な状況です。』との評価であり、表現力を中心とする活用力については一定の伸びが認められた。

○保護者へのアンケート調査の結果

- ①お子さんは、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣が身についているか。

「そう思う」の割合 36.4%（H26）⇒39.3%（H27）

- ②学校は給食を含め、食育を教育の重点活動として取り組んでいますが、本校の取組を知っているか。

「知っている、どちらかと言えば知っている」の割合 74.8%（H26）⇒84.1%

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- ・スーパー食育スクール研究発表会を開催して、研究紀要や指導案の資料を配布するとともに、給食指導の参観・授業公開・研究概要の報告・調査分析機関（高知大学教育学部）からの調査報告及び全体指導を行った。
- ・研究紀要については、県下の各市町村教育委員会、県立学校及び特別支援学校、関係諸機関に配送して、研究成果の周知を図った。
- ・HPの食育ページから随時、研究の取組についての情報発信を行った。HPを閲覧して、県外からも研究発表会に参加する方がいた。
- ・保護者、地域に対しては、啓発用横断幕を児童門横に設置するとともに、学級通信、学校長便り、パンフレットやリーフレットなどを配布して、本校の取組に対する周知徹底を行った。

8 今後の課題

●「ことばの力」の高まりの評価指標や方法

食育の実践を通して「ことばの力」の高める取組を行ってきたが、学力調査等での数値的な大きな伸びを認めることができなかった。しかしながら、学級担任は、この1年間で児童の伝え合う力は着実に高まってきていると感じており、「ことばの力」の高まりが評価できる方法や指標を再考していく必要がある。

●保護者の参画を促す活動の充実

本校の食育の取組を知らない保護者（3.4%）も未だにいる。保護者が食育講演会に参加しやすいように授業参観後や夜間に実施したにもかかわらず、参加者が少ない状況であった。今後は、家庭で役立つ実践方法や食に関する保護者のニーズを調査するなどして、参加してみたい、家庭で実践してみたいような活動を行っていく必要がある。